

## 答 辞

開花を待つ、桜の蕾の息吹が感じられる今日の佳き日、私たち98名は、旅立ちを迎えることとなりました。本日は私たちのためにこのような素晴らしい卒業式を挙げていただき誠にありがとうございます。ご出席くださいましたご来賓の皆様、また校長先生はじめ諸先生方、並びに関係者の皆様に卒業生一同、心からお礼申し上げます。

この三年間を思い起こすと、笑ったり、泣いたり、時には怒ったり、喜怒哀楽のぎっしり詰まった毎日が、走馬灯のように蘇ってまいります。三年前の春、新型コロナウイルスの影響により、入学式直前まで、式が行えるのかどうか不安でいっぱいでした。その後も臨時休校や行事の延期・中止を余儀なくされながら、私たちは中学校生活の三年間を過ごしてきました。そんな辛い環境の下でも、先生方が工夫してくださり、私たちは協力しながら沢山のいい思い出が作れたように思います。

夏には、部活動の集大成となった中体連。それぞれが自分の限界に挑戦し、歯を食いしばりながら最後まで諦めずに走り続けました。そして、秋、同じクラスで二回目となる体育祭。今年こそはと心をついに、どのクラスも練習に励みました。中学校最後の潮音祭。最高学年として最高のパフォーマンスを届けようと、全身全霊で取り組みました。クラスが今までにないほど団結し、大成功と胸を張って言える最高の潮音祭を創り上げることができました。中学校最大の行事である日光・那須方面への修学旅行。延期や場所の変更が続き、今回を逃したら中止になるギリギリのタイミングでの実施となりました。日常を忘れ、涙が出るほど、みんなと笑い合いました。

楽しい時はあっという間に過ぎていきました。部活動を引退し、中学校生活最後の行事が終わると、本格的に受験勉強が始まりました。

成績に伸び悩み、人知れず涙を流した日もありました。そんな時、一人一人の進路と向き合い、優しく相談に乗ってくれたのは先生方でした。あの励ましで私たちがどれほど救われ、頑張ろうという気持ちになれたことか本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今、私たちの姿は先生方どのように映っているのでしょうか？この三年間で私たちはどのくらい成長できたのでしょうか？先生方に教えていただいたことを道標にして私たちは前に進んでいきます。

お父さん、お母さん、そして家族のみんな。思春期の私たちは皆さんの声に素直に応えることができませんでした。いらいらした気持ちを言葉や態度に出してしまった時もありました。そんな時、心の中では、何度も何度もごめんなさいを呟いていました。いつも無償の愛であたたかく包んでくれて本当にありがとうございました。これから先も迷惑をかけると思いますが、夢に向かって努力するので、あたたかく見守ってください。

在校生の皆さん。皆さんがいてくれたことで、私たちは先輩になれ、自分たちが後輩を引っ張っていかなければと常に考え、行動することができました。よい手本になれたかは分かりませんが、少し先輩の言葉として聞いてください。中学校生活は長いようで短く、あっという間に過ぎていきます。決して後悔のない三年間を楽しんでください。皆さんなら、きっと、今以上に素晴らしい小名浜二中を創れるはずです。

そして、出会ってから三年。ずっとそばにいたことが当たり前だと思っていた友だち。私たちはこんなにも大切な宝物を、いつの間にか見つけていたからこそ、今日という日まで三年間、頑張ってきたのだと思います。これからも、三年間の思い出が、多くの場で心の支えになることでしょう。今まで本当にありがとう。

まだまだ思い出話は尽きませんが、そろそろ船出の時が来たようです。私たちは小名浜二中で学んだことを胸に、新しい扉を開けて、小名浜港にいる海鳥のように、自分の目標に向かって力強く飛び立ちます。

最後になりましたが、我らが母校、小名浜第二中学校が、これからも素晴らしい歴史を刻んでいくことを祈念して、答辞とさせていただきます。

卒業生代表